

- 調査対象 20歳以上の全国男女／「NTTコムリサーチ」登録モニター
- 調査方法 インターネット調査
- 有効回答数 540人
- 調査時期 2023年1月30日～1月31日

世の中を読むデータ

新型コロナウイルス感染拡大以降、ES調査の見直しを行なった企業は42.5%

今回は、「従業員満足度調査」（以下、「ES調査」）に関する調査結果から、新型コロナウイルス感染拡大以降のES調査の実施状況についてみてみたい。

コロナ禍で変わったビジネス環境

コロナ禍に見舞われた約3年の間にビジネス環境は大きく変わったといっても過言ではないだろう。

奇しくも働き方改革が声高に叫ばれ、その実践に向けて試行錯誤していた矢先の感染拡大。好むと好まざるとにかかわらず働き方を工夫せざるを得なかった企業は多かったに違いない。

働き方が変われば意識も変わ

る。従業員満足度の測定は、環境や働き方に応じて行なわれるものであり、コロナ禍を経て実施されるES調査は、調査内容の見直しや実施の有無も含め、検討が必要であろう。

新規でES調査を行なった企業……30.0%

調査結果をみると、全体では、「調査方法や設問内容の見直しを行なった」が42.5%でもっとも多く、以下、「新型コロナウイルス感染拡大以降に初めて調査を実施した」が30.0%、「従来から変化なし」が27.5%となっている。

従業員規模別でみると、101名以上の企業で、調査方法や設問内

容の見直しを行なった企業の割合が多くなっており、環境の変化に対応していることがわかる。

一方、従業員数100名以下では、新規でES調査を実施した企業の割合が多くなっているが、これは感染拡大を機にES調査の必要性を認識した企業が増えたと推察される。

コロナ禍以前の日常が戻りつつあるなか、イレギュラーなかたちとはいえ、ドラスティックな変化を経験したであろう多くの働く人々にとって、満足度を満たす要素はどこにあるのか。コロナ禍を経た企業にとって、思案のしどころである。

（インテリジェンスバリューコーポレーション株式会社 岩村克俊）

ES調査のコロナ禍における変化／従業員規模別 (n=369)

